

情報連絡員報告総括表(令和7年10月期)

富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食 料 品	醤油・味噌製造業	→	→	↗	→	↘	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料や燃料価格の高騰が続いているため、商品の値上げは必至の状況である。しかし、値上げすることで安価な県外産の商品と比較され、消費者離れが起きないか懸念している。価格を据え置いて量目を減らす方法もあるが、包材コストがかかるため、どちらにしても厳しい状況である。 ・輸出している事業者はアジア中心のため、現状では米関税措置の影響はないが、今後、米の価格に影響してくるため、動向に注視していく必要がある。 ・米や大豆が不作になると原材料価格が高騰するため、自然災害による農作物への影響が懸念される。富山県産の米や大豆が仕入れ出来なくなった場合を想定して、県外や海外の仕入れ先を確保しておく必要がある。 ・人材確保が難しいため、補助金を活用して生産性の向上や省力化を図るための設備投資を行っている事業者も見られる。
	パン製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・商品価格を値上げすると売れ行きが悪くなってしまったため、価格転嫁はまだ不十分である。 ・販売先が減少している。
	処理牛乳・乳飲料製造業	→	↘	↗	→	→	→	↘	→	↘	・特になし。
織 維 工 業	ニット製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・業界は厳しい状態が続き、先行きが不透明な状況は変わらない。特に衣料分野が厳しい。 ・染色工場の廃業により、受注生産量が減少している。
	絹人織織物業	↗	→	↗	→	↘	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料や資材など諸経費増大分は商品に価格転嫁出来ている。しかし、益々物価が上昇し、生活必需品でない織物商品を更に値上げするのは困難になってきている。消費者が高価格の商品を納得して購入する策を模索している。 ・円安を訴求する経済政策が標榜されているので、収益が確保できるか危惧している。
	綿・スフ織物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・1組合員企業の廃業により受注が激減し、収益を圧迫している。
木 材 ・ 木 製 品	一般製材業	↘	→	→	→	↘	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・新設住宅着工戸数の前年同月比は、21.1%の減少と二桁の減少が続いており、特に、中小工務店を中心に厳しい景況となっている。 ・ロシア材取扱事業者は、住宅着工戸数の減少に加え、外材から国産材利用に転換する動きにより需要が減少し、入荷量(半製品)は減少している。 ・プレカット工場の稼働率は、住宅着工数減で注文数が減り、低迷が継続している。
	その他の木製品製造業	↗	→	→	→	→	→	→	→	→	・前年よりも観光客が増えてきているため、少しずつ景気は上向きになってきている。

印	刷印 刷業	→	↘	→	→	→	→	→	→	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・他県の工業組合と災害時代替生産支援協定を締結している。今後、更に締結を進め支援の輪を広げていく予定である。県内の締結企業は13社だが、その枠を超え災害時は組合として広く支援体制を整え生産体制維持に務めていく。
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料費や燃料費の上昇分を価格に転嫁出来ず、収益を圧迫している。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比100.6%とほぼ前年並みの実績となっている。
	コンクリート製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	↘	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
	骨材・石工品等製造業	→	→	→	→	↘	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度骨材価格の値上げについて、取引先に説明を行っている。 ・得意先と手形などを廃止し、電子決済への移行が進んでいる。 ・骨材需要は、堅調に推移している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・生産量はやや回復したものの、先行きに対する不透明感は依然として強く、景況感は悪化している。
	銅・同合金鑄物製造業	→	→	→	↘	↘	↘	→	→	↘	・地金価格高騰の長期化による影響が大変深刻である。
	アルミニウム製品製造業	↘	→	↗	→	→	→	↘	→	↘	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・組合員の事業状況について、先月までと大きな変化はない。 ・県内では、アルミ関係、機械関係の事業不振が続いていると聞いているが、当組合員企業には影響は見られない。また、材料・部資材のコストや輸送コスト、人件費の上昇による事業への影響はあるものの、経営に大きなダメージはない。 ・全国労働衛生週間に合わせて、3年後に小規模事業所においてもストレスチェックが義務化されることへの準備、ワークライフバランスについての意識づけを強化している。
	めっき加工業	↗	→	→	→	↘	→	→	↘	↘	・取引先からの受注量は、前年同月比で若干の増加となっている。 ・原材料費の高騰が続いており、収益状況は悪化している。
一般機器	金属工作機械製造業	→	→	→	→	→	→	→	↘	→	・今月も工作機械関連の受注が好調であり、受注高及び売上増加に影響している。全体的には前年同月と比べて受注量に変化はない。
	金属加工機械製造業	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘	↘	・米国関税措置の影響が出始めているのではと感じている。
	非金属用金型製造業	↘	→	↘	→	↘	→	↘	→	→	・全てが悪いわけではなく、2割程が堅調、中間はなく、残りが不振低迷で、平均するとマイナス模様となっている。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	↗	↗	↗	→	↗	→	↗	→	→	・車載向けは若干弱含むが、産業機器向けで売上が増加している。 ・車載向けは、新製品の流動が少しずつ増えてくる見込みである。 ・民生品で新製品の受注があったが、先行きは不透明である。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・外務大臣と地方自治体首長の共催による「寿司といえど富山」のレセプションが開催され、富山県の多様な魅力が国内外に発信され、伝統工芸品のPRにも繋がっている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	セメント卸売業	→	→	↗	↘	→	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・9月より仕入れ単価や売価がアップしたことによる影響については、落ち着きつつある。 ・ダム関連工事需要をこなし、実績として10月は前年同月比101.4%と上回り、半期累計売上でも対前年比104.2%と順調に推移している。
	非鉄金属製品卸売業	↘	↘	↗	↘	↘	↘		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・着色業者が激減し、商品が完成しない事例が増えており、先行きが不安な状況である。
小売業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	↘	→	↗	→	↘	↘		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントに押されて売上が減少している。
	野菜・果実小売業	↘	→	→	→	↘	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の富山卸売市場は、前年同月比で数量92%、単価103%、売上95%となっている。 ・組合員全体の売上については、前年同月比89%となっている。
	家庭用電気機器小売業	↘	→	↗	→	↘	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
	ガソリンステーション	↘	→	↘	↘	↘	↘		↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制など、SSの経営環境は依然として厳しい。 ・物価高による利用者の節約志向が響き、ガソリン販売量の減少は続いている。引き続き、需要の回復感は弱い。 ・ガソリン暫定税率廃止が決定し、引下げ前の高値在庫を売り切るには一定期間要することから、短期間での引下げは経営の打撃となる恐れがあり、需要の大きい年末と重なるため、SS現場の混乱が懸念される。
	スポーツ用品小売業	→	→	↗	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・学校需要品である制服や体操服を中心に、値上がり傾向にある。
	ショッピングセンター	→	→	↗	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・若干売上が上昇しているが、商品価格の値上げ分であり、客数は昨年並みで推移し、消費者の物価高に対する生活防衛的な節約志向は更に高まっている。

業種	項目	売上	在庫	販売	取引	収益	資金	設備	雇用	業界	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
		高	量	価	条	状	繰				
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・紅葉の時期となり、県外客や外国人の姿が多く見られ、人流はまあまあである。 ・衣料品店では、冬物の動きが活発である。 ・商店街ポイント還元キャンペーンの効果により来店客が増えている。 ・路線バス縮小による影響を心配している。
	商店街	↑	→	↑	→	↑	→		→	→	・物販は1割程度客足が伸びている。飲食についても回復している。
サービス業	情報サービス業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	クリーニング業	↓		→	↓	↓	↓		→	↓	・特になし。
	飲食業	↓		↑	→	↓	→		→	↓	・売上の前年同月比は-4%となっている。 ・物価の上昇により、家族での外食が減少している。 ・独自の企画によって、一部店舗では売上が伸びている。
	建築設計業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・10月の自動車新車新規登録・届出台数(登録車と軽自動車の合計)は、前年同月比で4ヵ月連続の減少となっている。ただ軽自動車については、認証不正問題から回復し新型車の販売が伸びたことで、4ヵ月ぶりのプラスに転じている。 ・新車市場は、物価高騰や車両価格の値上げ、一部車種の納期長期化や受注停止などが影響し、全体としては厳しい状況が続いている。 ・自動車整備事業者は、各種自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えている。こうした課題に対応できない事業者は、自社の取扱い車種が加速度的に減少していく状況にある。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	↓		↓	→	↓	↓		→	↓	・例年秋には需要が出て来るが、今年は見積も少なく需要の低迷が深刻化している。 ・鉄筋工事業界では、材料の丸棒は殆どゼネコンの支給であり価格交渉は加工費のみであることから、当業界でも、いずれ手形が出来なくなることで、鋼材費の占める割合が多いため、ゼネコンからの材料支給であれば価格交渉は加工費がメインとなり、極端な指値は回避出来ると思われる。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↓	→	・景況に変化はない。 ・給水装置工事配管技能検定会を開催し、29名が受験している。 ・各組合では、水道事業体に対して新年度予算確保に向けた要望活動を実施している。
	電気工事業	↑		↑	→	→	→		→	↑	・公共工事、企業の設備投資、住宅着工いずれも好調に推移している。 ・材料費、人件費等コスト増加分も見積りに転嫁されているが、今後更なる材料費の値上げが見込まれ、労働力不足の中、働き方改革などにより、収益悪化が懸念される。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・燃料価格について、前年同月比で+2.1円/ℓと微増となっている。 ・物量は、小口が前年同月比103.3%、貸切は102.8%、全体としては103.4%と好調となっている。 ・荷主には、運賃値上げのお願いをしている。